

CHILDREN'S VOICES

皆さまと守り続けた笑顔
～ともに歩んだ30年～

2024年3月、アイキャンは

アイキャンは、一人ひとりの「できること」を持ち寄り、貧困・紛争・災害による影響を受けた子どもの能力向上や地域の環境改善に取り組んできました。

人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」。
Not “for” the People,
but “with” the People.

これまでも、これからも変わらない、アイキャンの合言葉です。

アイキャンの活動は、大きく次の3つに分けられます。

- 1 「できること」に気づく
- 2 「できること」を増やす
- 3 「できること」を持ち寄る

一人ひとりが、自分にできることに気づき、そのできることを増やすこと、そしてそれを持ち寄ることで、社会を変えるためのより大きな力となると信じています。

1994年



団体設立。
ミンダナオ島やマニラの路上の子どもへの奨学金提供。
(~2000年)

1996年



ミンダナオ島小学校への学校給食提供。
(~2005年)

1997年



パヤタスごみ処分場周辺地域での保健医療活動開始。

1999年



パヤタスごみ処分場周辺地域での生計向上事業開始。(後にフェアトレード生産者団体設立)

2000年



特定非営利活動法人に法人化。スタディツアー・海外研修事業開始。

2006年



ミンダナオ島先住民地域及び紛争地域での校舎建設等。
(~2019年)
マニラの路上の子どもへの路上教育、生計向上のための技術訓練等開始。

元日本事務局職員・理事：直井恵

(在職：2001~2005年)

在職当時、日本事務局職員は二人だけだったので、特に担当もなく何でもやっていました。フィリピン出張の機会もあり、フェアトレード生産者団体SPNPのお母さんたちや子どもたちとの出会いを通して感じた、人の持つパワー、圧倒的な力強さが印象に残っています。

今は、長野県上田高校の「海外交流アドバイザー」として高校生のフィリピン研修に携わっており、アイキャンと一緒に研修内容を作らせてもらっています。

世界の状況はなかなか変わらないどころか、ますます格差が広がるばかり。そういう中でNGOは最後の砦だと感じています。引き続き、届きにくい声や見えない現状を伝えてもらいたいですし、それらを一緒に届けられる機会が持てたら、私もとても嬉しいです。



フィリピンでは様々な出会いがありましたが、困りごとを抱えているはずなのに、いつのまにかこちらが救われてしまうような、そういう人間が本来持っている力を、出会った皆さんから沢山感じました。(直井)

先住民の地域で、アイキャンが建てた新しい校舎での初めての卒業式のとき、あるお父さんが「自分の村からやっとうとう卒業生を出せて嬉しい」と、泣きそうになりながらスピーチしてくれました。(野村)

30周年を迎えます！

元マニラ事務所代表：野村幸代

(在職：2005～2015年)

在職中に印象に残っていることは沢山ありますが、アイキャンが建設した児童養護施設「子どもの家」に初めて来た元路上の子どもに、これまでのことを聞いても涙があふれるばかりで言葉にならなかった、その「無言の言葉」が忘れられません。



組織のライフサイクルは30年と言われます。30周年をアイキャンが迎えられることは、本当にすごいことです。30年を節目にまた新たなステージへと展開できますように。今後、事業地訪問にボランティアスタッフとして関わりたいと思っています。

事務局長：福田浩之

(在職：2013年～)

アイキャンの30年の歩みは、常にパートナーの皆様とともにありました。改めて、心より感謝申し上げます。



これまで多くの成果と価値を生み出してきた反面、財政的な困難にも直面しています。そのため今年度、30年の歩みを積極的に評価しつつ、現在の課題を洗い出し、10年後の組織・活動のビジョン・ミッションを具体的に描き直し、実現に向けた活動計画をスタッフ全員で作上げる場を定期的に設けています。これからのアイキャンも応援してください。どうぞよろしくをお願いします。

2012年



日本事務局でのチャリティ語学教室「スマイルチケット」。(～2021年)

2013年



フィリピン台風ハイエン被災地緊急救援活動。(～2016年)

2015年



イエメン国内避難民への食料提供。(～2022年)
児童養護施設「子どもの家」建設。

2016年



ジブチ難民キャンプの子ども保護事業。(～2022年)

2019年



長野市での台風19号被災地緊急救援活動。(～2022年)

2023年



岐阜出張所開設。

2024年
30周年イベント開催予定！

台風ハイエンのとき、私は被災地と日本と日々やり取りをするためにマニラ事務所待機していました。危険な現地に入るスタッフの無事を祈りながら、活動のための助成金の申請書をひたすら書いていたことを覚えています。(野村)



ジブチ事業の助成期間が終わるとき、資金のめどが立たず活動を終了せざるを得ない状況でしたが、難民の若者たちが「自分たちが続ける」と言い、継続することになりました。活動の意義を理解し、自らも困難な状況にありながらもボランティアで活動を続けてくれるという想いに感動しました。

(イエメン・ジブチ事業担当職員 藤目春子)

マンスリーパートナー：櫻井陽子さん

スタディツアーでご縁をいただき、約10年間マンスリーパートナーとしてアイキャンの活動を応援しています。私にとってアイキャンは、ツアーを通してできた人や地域との繋がりを大切にできる特別な団体です。アイキャンの活動を通して、遠く離れた彼らの生活に関わり続けることができ、感謝しています。いつか支援が必要となくなる日が来ることを願い、微力ではありますが私にできることを今後も続けていきたいと思っています。



マンスリーパートナーを募集しています

マンスリーパートナーは、月々500円からの一定額をご寄付いただき、アイキャンの活動および運営を応援していただく制度です。継続的なご寄付は、活動の持続・発展において大きな力となります。

ぜひマンスリーパートナーになって、これからも「ともに」活動してください！



↑詳しくはこちら

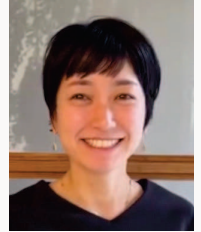
*アイキャンは、名古屋市の認定を受けた「認定NPO法人」です。アイキャン発行の寄付金領収書を用いて確定申告を行うと税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

「できること」に気づく事業

岐阜出張所主催の国内研修

背景

アイキャンでは、2000年からフィリピンでの研修を実施してきましたが、そこには既に「課題」があり、参加者は「用意された課題」から学ぶという流れでした。そうではなく、**自ら課題を見つけ、自分がどんな社会で暮らしていきたいかを考える機会、そのために何ができるかを考える機会を作ることも必要なのではないかと感じていました。**



日本事務局 吉田文



大学からの相談

そのような中、愛知大学の学生課から、SEEDというボランティアサークルの活動を活性化するため、**SDGSの達成に向けて国内の課題で携われることを考え、実現可能性についても学生自身で確かめられるような機会が欲しい**という依頼がありました。そこで思いついたのが、岐阜出張所のある岐阜県揖斐郡での里山研修！

豊かな自然と共生する地域

岐阜県揖斐郡は、私が生まれ育った地域でもあります。しかし、里山研修を思いついたものの、何を切り口にどのような内容で参加者に学びを提供していくのかは手探りでした。考えれば考えるほど**「身近なものほど知っているようで知らない」**ということを痛感し、多くの方にアドバイスを求めました。



里山歩きで魅力と課題を発見

当日は、学生10名と職員2名が参加し、里山を歩くフィールドワークや地元の猟師の方のお話を通して、この地域の魅力や課題を知ってもらい「できること」を考えてもらいました。参加者同士が互いの「気づき」を共有した際、学生の目線を通して**私自身改めてこの地域の魅力に気付かれました。**

参加者の声

「名古屋からそれほど離れていない岐阜県で、自分の知らないことが沢山あって驚きました。SEEDとして**課題解決に携われるような活動を立ち上げていきたいです**」



研修を終えて

持続可能なよりよい社会を創造するために、**自ら課題を見つけ、自分が望む社会を考え、できることに気づく力を育む研修を、今後も実施したい**と思っています。そのためにも、私たちスタッフがもっと学び、地域の資源や課題を知る必要があると考えます。今後も試行錯誤を重ね、よりよい研修を構築していきたいです。



フィリピンでのスタディツアーも、2024年3月20日～24日に開催予定です！

詳細はこちら→



「できること」を増やす事業①

子どもの家

背景

児童養護施設「子どもの家」には、11～15歳の16名の子どもたちが暮らしています。路上にいた頃は学校に通っていなかった子どもも多く、ほぼ全員が実年齢より下の学年に属しています。「子どもの家」に来たばかりの頃は、10名が読み書きができませんでした。



フィリピン事務所
Romel B. Basan

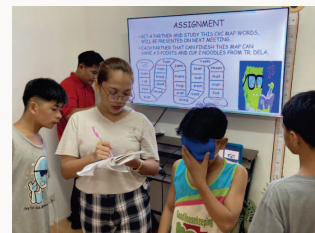


勉強することの意味を知らない子どもたち

かつて路上でお金を稼いでいた子どもの中には、勉強する意味を理解できず、「子どもの家」で読み書きを教えている際に「別に文字を読めなくてもお金は稼げる」と言って勉強しようとしなかった子どももいました。私たちスタッフは「**どうしたら、子どもたちに学ぶ楽しさを知ってもらえるだろう?**」と頭を悩ませました。

好きな歌が勉強のきっかけに！

そこで思い付いたのが、子どもたちが好きだったラップの曲を使った授業でした。子どもたちは日頃よくラップを歌っていましたが、早くて聞き取れない箇所は歌えていませんでした。その箇所を文字に起こして子どもたちに見せたところ、読めないため「**何て書いてあるの?**」と聞いてきました。それから文字に興味を持ち、子どもたちは少しずつ勉強するようになっていきました。



読めるようになって広がった世界

「子どもの家」には、タガログ語の本だけでなく、日本のパートナーの方が寄贈してくださった英語の本や図鑑もあります。見たこともない動物を図鑑で知るなど、**読めるようになったことで子どもたちの世界が広がり**「寒い地域のクマは毛が白なんだよ！」などと嬉しそうに話してくれるようになりました。

成績優秀で表彰！

7月、嬉しい出来事がありました。アントニオ君（仮名）が、**小学校の成績優秀者として表彰された**のです！彼は、元々読み書きができなかった子どもです。表彰式でアントニオ君はとても緊張していましたが、大勢の児童や教師たちの前で賞状とメダルを受け取ると、達成感に満ちた笑顔になりました。帰宅後は、他の子どもたちもスタッフも大喜びで、料理を囲んで皆で盛大にお祝いました。



アントニオ君の声

「アイキャンの先生がいつも僕に付きっきりで勉強を教えてくださいました。路上で仕事をしていたとき、僕と同じくらいの子が学校に行くのを見て、僕も行きたいと思っていました。**今、学校に行けて本当に嬉しいです**」



「子どもの家」の子どもたちを応援していただく「ファミリープログラム」会員を募集しています！

詳細はこちら→



「できること」を増やす事業②

ライフスキル研修

背景

路上の子どもたちは、周りの大人から褒められたり期待されたりすることや、成功体験を得ることが極端に少なく「どうせ自分なんて…」という言葉の口にすることも少なくありません。路上から抜け出したい、抜け出せる、と思ったこともないという子どもにもたくさん出会いました。



フィリピン事務所
柴田康平

スポーツを通じた研修を！

自分に期待し、自信を持つには、成功体験の積み重ねが必要です。そこでアイキャンでは、**日常生活の問題に向き合い、仲間とともに解決に取り組むための力を育む「ライフスキル研修」**を実施しています。その取り組みの一つとして、8月、スポーツを通じた研修を行いました。理由は、私自身に体育教師の免許があり、スポーツが気持ちにもたらす影響を知っていたこと、またジブチの難民キャンプで、スポーツを通して子どもたちの心を癒やし、自己肯定感を育む活動の経験があったからです。



マニラ日本人学校との協働

ちょうどマニラ日本人学校の先生と出会い、同様の問題意識を共有して、**協働でスポーツを通じた研修を実施しよう**と意気投合しました。そして、マニラ日本人学校のグラウンドと体育館を借りられることになりました。



協同組合カリエのメンバーも参加

研修には、かつて路上で生活していた「協同組合カリエ」のメンバーもコーチとして参加することになりました。研修の3日前、私たちスタッフは、カリエのメンバーとともに、どのようにしたら路上の子どもたちにとってよりよい研修になるかを考えました。メンバーからは「自分たちが技術訓練を重ね、仲間と協力したことでカフェをオープンできたように、**努力が報われることや、仲間となら困難を乗り越えられることなどを伝えたい**」という意見が出ました。



子どもの行動を変えた、カリエの声掛け

研修当日、路上の子どもと「子どもの家」の子ども計48名が、サッカーとバスケットボールを楽しみました。自分ばかりボールを持ち、なかなかゴールを決められなかった子どもを見たカリエのメンバーは、その子どもに「仲間にパスしてみたらどうなるかな」と声を掛けました。その子どもは、**自分一人ではゴールを決められないと徐々に気づき、仲間にパスするようになり、ゴールを決められるようになりました。**



参加した子どもの声

「自分でゴールを決めたいと思っていたけど、一人ではなかなかできませんでした。でも、仲間にパスをしたら仲間がゴールを決めてくれ、そのおかげで試合に勝つことができ嬉しかったです。また、コーチがインサイドキックを教えてくれて、何度か練習したらできるようになりました。**できないことも諦めずに練習すればできるようになるのだと分かりました**」



「できること」を持ち寄る事業

街頭募金活動

背景

アイキャンが毎月実施している街頭募金では、高校生をはじめとした**学生ボランティアの方々が活躍**しています。特に、長年連携している聖霊中学高等学校DAC部では、活動の一つとしてアイキャンの街頭募金への参加が定着しています。



日本事務局 長谷川薫



参加したいのに「順番待ち」

ところが2020年春以降、新型コロナウイルスの影響で、思うように街頭募金ができなくなりました。感染が拡大している時期には、名古屋の繁華街に集まるわけにいかず、何度も中止せざるを得ませんでした。多少流行が収まっている時期だけ、人数制限付きでの実施だったため「**参加したい人の一部しか参加できない**」という苦しい状態が3年間続きました。

人数制限を撤廃！

2023年5月、新型コロナウイルス感染症の位置づけが第5類に引き下げられ、自由に街頭募金ができるようになりました。「**これ以上、参加希望者に我慢させたくない!**」との想いで、6月には人数制限なしで参加者を募ったところ、40名以上の希望者が集まりました。



参加したい人が参加できるための工夫を！

参加希望者が多いのはとても有難いことですが、事務所に入ることができないため、**事前・事後の説明や募金の場所をどうするか、頭を悩ませました**。他のスタッフとも相談し、人数と時間を分ける3部制にし、事後の振り返りは近くの公園で行うことにしました。

社会人ボランティアの協力

3部制にした場合、問題になるのが引率スタッフの確保です。そこで、社会人のボランティアの方々に相談し、私が担当できない2つのグループを各2名の方が引率して下さることになりました。その結果、**一度に3か所で活動することができ**、それまで以上に多くの方から募金を集めることができました。7月以降も、社会人ボランティアの方のご協力のおかげで、人数制限をすることなく毎月街頭募金を実施できています。



DAC部顧問・池田先生の声

「3部制で希望者全員が活動できるようにしていただき、心より感謝申し上げます。いつも上手に導いていただき、子どもたちの可能性がしっかり引き出されます。DAC部の中でアイキャンの街頭募金が大人気なのは、『**やりがい**』を感じたり新たな『**気づき**』を得たりすることができるからだと思います。とても充実した活動の様子に、本当に嬉しい思いでいっぱいです」

年末年始、あなたの「できること」を大募集します！

その1 未投函ハガキ大募集！！

募集強化期間：2023年12月10日～2024年2月28日

未投函の官製ハガキ等がお手元にありましたら、封筒に入れて、アイキャン日本事務局までご郵送ください。ハガキ1枚は、例えばフィリピンの子どもが勉強するためのノート1冊分になります！

<募集しているもの>

未投函の官製ハガキ（年賀ハガキでなくても構いません）

未使用の切手、テレフォンカード、商品券、収入印紙

※ハガキは、未投函の官製ハガキ（切手を貼らずに投函できるもの）であれば、書き損じのものや古いものでも構いません。

※上記期間以外でも随時募集しています。



その2 古本等の不要品大募集！！

キャンペーン期間：2023年12月10日～2024年1月9日

ブックオフコーポレーションとの連携により、古本等の買い取り額が、アイキャンの活動に役立てられます。古本以外にも幅広いアイテムが買い取り対象となっており、上記キャンペーン期間中にお申し込みいただけますと、寄付金額の10%分が別途ブックオフからアイキャンに寄付されます。この機会にぜひ、お申し込みください！

※キャンペーン第2弾は、2024年3月10日～4月9日を予定しています。



お申込みはこちら↑

<お申し込みからご寄付までの流れ>

①応援したいプログラムを選ぶ

上記二次元バーコードで、アイキャンのプログラムを応援するページが開きます。そこからお申し込みください。
*お電話(052-253-7299)でもお申し込みを承ります。



②不要になった物品を梱包する

物品をダンボールに梱包してください。ご指定の日時に配送ドライバーが送料無料で集荷に伺います。



③物品の買い取り金額がアイキャンへの寄付に！

ブックオフによる買い取り金額が、アイキャンに振り込まれます。



事務所を移転しました！

団体の固定費を極力抑え、貴重な資金を少しでも多く事業に活用するため、また、ボランティアさんが集まりやすい場をつくるため、アイキャン日本事務局は、2023年11月に下記のシェアオフィスに移転しました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

【新住所および未投函ハガキ郵送先】

〒461-0002 愛知県名古屋市中区代官町39-18

日本陶磁器センタービル5F 中部リサイクル運動市民の会内

認定NPO法人アイキャン (ICAN)

【TEL&FAX】052-253-7299（閉所：日・月・祝）

【E-mail】info@ican.or.jp 【WEBサイト】https://ican.or.jp/

【Facebook】https://www.facebook.com/ICAN 【Instagram】ican_ngo

